

八事山 文庫



2019・夏 盆供養のお知らせ

令和元年(2019)5月 年4回発行[寺報]

発行所 高野山真言宗 別格本山 八事山興正寺

和の文化と自然



高野山真言宗
別格本山 八事山興正寺

<http://www.koushoji.or.jp>
TEL 052-832-2801 FAX 052-832-8383



和の文化と自然

日本各地に伝わる年中行事や通過儀礼など、いつ、だれによって始められたということでもなく、自然に発生し、無意識に先祖たちによつて受け継がれ、今に続いてきた宗教儀礼や行事を、今日的表現で「自然宗教」と言い表します。それに対して教祖の説く教義や戒律・儀式などをもつた宗教を「創唱宗教」と呼びます。

初詣、村の鎮守祭り、節句やお彼岸・お盆の行事、秋祭り、七五三参りや初宮参りなども自然宗教の部類でしょう。それらは地域の慣習や風習、先祖への感謝や自然の山河に対する

敬虔な気持ちなどによつて次第に形ができあがつてきたと考えられるからです。

日本人は自然や四季の変化に応じて農耕し、祭りごとや生活習慣、地域の文化を育んできました。それらの日本的宗教観と釈尊の説かれた仏教が習合して今日の日本仏教・和風文化が生み出され育ってきたのでしょう。長い歴史の中で育ち培われてきた日本人の魂のつながりと受けとめるべきかもしれません。

日本人の精神性は、移ろいゆく儂き生命を美と捉え、山川草木の自然美を慈しむたおや

かな心を育んできました。まことに日本人の心は、自然を友とし、自然の中に安らぎや命の繋がりを感じてきたのでしょう。高野山を開きになった真言宗の祖「弘法大師」空海さまもまた「草木国土悉皆成仏」という言葉を残されています。

しかしながら、今日の私たちが暮らす社会や生活環境を考えると、もともと日本人が育んできた自然と共にある生き方とはあまりにもかけ離れ、人間優先、人間本位の文明社会で埋め尽くされています。

およそ生きとし生けるものは、命の繋がりと継承によつて成り立っていることは言うまでもありません。私たち現代人の生き方が、利便性や経済効率の名のもとに、あまりにも人間の傲慢をむきだしにした社会を求め続けるならば、そして自然や宇宙の霊性を感じ取ることを忘れてしまうようならば、その責任は私たち自身と次世代の子供が重く背負うことになってしまいうでしょう。

自然界に広がる霊性への気づきこそが、私たちの心に安らぎを与え、生活に潤いを感じさせてくれるのではないのでしょうか。

お寺には霊性を感じさせる自然生命の神秘があります、そこに現代社会に暮らす私たちの命の源があります。お寺には生命の神秘性を享け止め、心を満たす時空があるのです。

ほうしょう

住職 西部法照

岐阜にある法福寺の住職を継いだ後、1998年に渡米。シアトルにある高野山仏教会主任開教師に就任。レッドモンド市郊外にシアトル神護寺を開山し、住職を10年に亘り務める。帰国後引退し、18年9月より興正寺の住職として就任。



行事のご報告

「二月―四月」

一月一日

- 修正会／新年初護摩祈祷会
- 新年の室礼「竹翠亭」

日本のお正月の美しさに出会い、新年を清々と迎えられようと想いを込め、皆様をお迎えさせていただきました。

一月五日

- 大般若経転読祈祷会

多くの参拝者が熱心に読経に耳を傾けておられました。



一月十二日

- 興正寺初釜

祝膳には三肴、海物は結び昆布、山の物はかやのみ、子孫繁栄を願うダイダイと、新しい年を皆様と一緒に祝い致しました。

一月十三日

- 旧成道会「旧暦十二月八日」

一月十五日

- 大書院廊下骨替え

広々とした大書院に清新さを感じさせる蘭草の香りが広がりました。



一月二十三日

- 職場体験学習「城山中学校」

寺宝の取扱を通じ古の想いを語り継ぐ事の大切さや、境内清掃(作務)を通じ心を整えることをお伝えしました。



一月二十五日

- 文化財防火デー防火訓練

毎年二十六日の「文化財防火デー」に伴い、国の重要文化財である五重塔にて消防訓練を行いました。



二月三日

- 節分厄除祈祷会
星祭開運祈祷札

- 福豆茶席「竹翠亭」

新しい暦の始まりの日を清々と迎えられるように前日の節分に厄を除き福を呼び込む節分・星祭を動めました。竹翠亭での福豆茶席の笑い声に沢山の福が舞い込むようでした。



節分厄除祈祷会

二月二十日

- 西尾市オープンカレッジ「全6回」

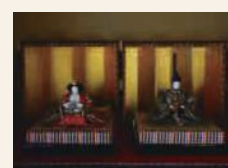
西尾市生涯学習講座「お茶の歴史ウラオモテ」の講師としてお招きいただき、茶の古典を紐解きながらその歴史を学びました。



二月二十五日～三月七日

- 桃の節句の室礼「竹翠亭」

雛人形の素晴らしさはひとときですが、懐かしく暖かいひな祭りの願いを思い起こす桃の節句に、春のように心緩むひとときとなりました。



大西人形本店より

二月二十八日

- 護摩祈祷「やまと保育園」

この祈祷は子どもたちの身体健全を願い毎年行われているもので、僧侶と共に護摩祈祷に挑戦しました。



三月六日

- 奥之院屋根修繕

興正寺創建当時より信仰を支え、歴史文化的にも重要な堂宇を後世に伝えるため、修繕を行いました。



- 校外学習「表山小学校」

お寺は感謝と祈りをかたちに残し大切に繋ぐ場所という事を境内散策を通して学んでいただきました。

三月十日

- 境内散策「大ナゴヤツアーズ」

「猿猴庵が記録した八事山を歩く」と題し、元名古屋市蓬左文庫の松村さんの案内の下、尾張藩主・高力猿猴庵が描いた八事山の情景絵本に重ねて散策を楽しみました。

三月十一日

- 茶の湯体験「近隣幼稚園」

お辞儀の仕方やお抹茶の頂き方を通して日本の心に触れ、体験をすることで、子ども達が大きくなったように感じました。

三月十四日

- 開山忌／開山忌記念茶会

開山 天瑞圓照大和尚の命日にあたり、山内はじめ法類寺院より参集しお勤め致しました。開山忌に併せ記念の茶会を催しました。



- 得度式

三月十七日

- 涅槃会「旧暦二月十五日」

三月十八日～二十四日

- 春季彼岸会

三月二十一日

- 人形仏具供養会／動物慰霊法会
- 興正寺施主慰霊法会

三月二十四日

- 永代祠堂法会

三月二十五日

● 境内散策・皇茶案内「名古屋市高年大学
鯉城学園二十九地域Aの会」

クラス会のレクリエーションとして境内散策をガイドさせていただきました。竹翠亭でのひとときをお過ごしいただきました。



三月二十七日

● 子ども
寺子屋くらぶ 春

春色の枝垂れ桜の下で美しい緑をたえたお抹茶と桜の香りの桜餅を作り、みんなで頂きました。



三月三十日

● 池口恵観大阿闍梨大護摩供
高野山伝燈大阿闍梨池口恵観大僧正による大護摩供を厳修致しました。



写真提供：大護摩供参列者

三月三十一日

● 第十六回名古屋ツーデーウォーク
● 宗春おもち祭りin名古屋城春まつり

徳川宗春公を通して名古屋の歴史などを広く理解するために活動されているイベント。おもちゃまきに招待いただきました。



四月四日

● 仏前結婚式「於 西山本堂」

おふたりがこの日を迎えられたご縁に感謝し、夫婦の縁を結ぶことをご先祖様と御仏にご報告されました。



写真提供：シュシュブライダル

四月八日

● 大日堂大祭「華曼茶羅会」

多くのご参拝と幟のご奉納をありがとうございます。皆さまとご縁を大切に、ご祈願させていただきます。

四月九日

● 参拝・瞑想体験
「タイ王国より」

堂宇案内と奉読・瞑想指導をいたしました。信心厚く、清らかなお心が伝わってまいりました。



四月十三日・二十七日

● 十三参りの日

大人への階段を上がる節目として厄難を払い、知恵を授かる祈禱会です。春の陽のように晴れやかな境内となりました。



四月二十五日

● 御正當「旧暦三月二十一日」
● 団体参拝「奈良・河内いにしへの
律寺と花を巡る旅」

四月二十七日

● 駅ちかウォーキング2019
SPRING

● その他の活動報告「二月―四月」

出張法話

- モーニングパーク主税町
- としわ会昭和区複合型介護施設
- 特別養護老人ホーム高坂苑

● 茶の湯・阿息観体験・境内散策案内など

- 中京大学歴史文化学科
- 金華婦人会
- 名古屋コンベンションビュロー（留学生）
- なごやんツアー

● 茶会・華展

- 八代流華展
- 宗偏流祖忌茶会
- 宝山流華展
- 興正寺月釜（遠州流）

● 奉納・協賛など「興正寺より」

- 八事学区子ども会（お楽しみ会）
- 準人池公園桜まつり
- （主催／いりなか商店街発展会）
- 愛知縣護国神社（春のみたま祭）
- 須佐之男神社
- 児童養護施設南山寮（おさがりのお福分け）

● 会合参加

- 愛知宗務支所役員会
- 日本福祉文化学会東海大会（実行委員会）
- 高野山真言宗東海ブロック支所協議会
- 寺族婦人会
- 二十一大師霊場会先師忌法会
- 八事里山づくりの会

境内施設利用

- ボーイスカウト名古屋第一団
- 中京大学茶道部
- 宗偏流名古屋支部

取材・掲載

- 東海テレビ「スイッチ」二月二十一日
- 月刊 K e e l y 5月号
- 茶華道ニュース
- ホームニュースしょうわ
- タウンニュースてんばく
- 大人の名古屋 Vol.46
- ようこそ名古屋へ暮らしの便利帳

◆ 苔庭整備ご報告「竹翠亭」

竹翠亭の苔庭整備を終えました。心静かなひとときを。どうぞお待ちしております。



◆ 志納ご芳名（順不同敬称略）

〔平成三十一年一月一日～四月一日〕
金壹百萬円 加藤 洋江
金壹萬円 間瀬 たか
匿名（弘法堂修復志納）
ありがとうございました。
心より感謝申し上げます。 合掌

お話を聴きし、寄り添うこと。

お寺の大切なお役目のひとつ。

興正寺
ひと語り

僧侶 鈴木 智弘
ちこう

昭和54年生まれ。お大師様の御入定と同じ
3月21日に誕生というご縁もあり自然と僧
侶を志す。當山の講座では御詠歌入門講座
と初級講座を担当。

興正寺での私の務めは、永代供養のご相談をはじめ多くの役割をいただいております。いつもは納経所にいることが多いこともあり、ご来寺くださる方々とお話しをする機会に恵まれております。

ご相談にお見えの方からは、「お墓の守りができない」「お墓が無い」「ご家族に負担をかけたくない」などのお話しをお聞きすることがあります。生前にご自身で、人生の終わりのその先を決めになることで、残される方々の負担を少なくしたいとお考えのようです。興正寺にご縁を感じていただく中から、ここでのご供養をご希望されるのだと感じています。

「まだ誰にも話していませんただね……。」ご相談が始まりは、こんな言葉から始まることがあります。それは、ご自身の心の中にある「秘めごと」を初めて人に伝えるかのようです。そんなご相談に対して実は、明解な答えを返すことは多くありません。人にはそれぞれの考えや感じ方があります。私の経験や実感をお伝えし、ご相談者に寄り添うことで、ご自身でお答えを見つけ出すきっかけになることが大切だ

と思っています。

僧侶になり月日を重ねてきましたが、今だに伝える内容が本当にこれでいいのか、と考えてしまうことがあります。ご来寺の方の中には、ご相談のお答えを求められている方もいるのだらうと思います。お答えが見つかることでの安心を得るために、お寺に來られるのだと。ただ多くの内容に対して、答えを出せないことがあるのではないかと感じています。

こんなことがあります。した。「極楽って、いい所なのかねえ?」とお聞きになられました。「いい所じゃないでしょうか。居心地がいいから、誰も帰って来られないんだと思いますよ。」とご返事いたしました。

また、こんなこともありました。「もうそろそろお迎えが来てもいいのに、まだ来ないんだよ。」と話されるのです。私は、「まだ、しなくてはいけないことがあるんじゃないか?」と「何をしたらいいのかね?」との問



いには、「今すぐには分らないと思いますよ。」とお返しすると、「この年になつても、まだやることあるのかね。」と言われるます。少し考えてから、「あるから生かされているのでしょね。この世でのお務めが終わったら、お迎えに見えるんじゃないでしょうか。」とお話しを重ねていきました。

こんなお話が出来る場所が、お寺なんだと実感したエピソードでした。人はどこかで誰かに聴いてもらいたいことがあります、話す場所を探しているのかもしれない。秘めごとや「内緒話」になれば尚更のこと。そんな話を聴いてくれる、寄り添ってくれる、一緒に考えてくれる。お寺の大切なお役目だと感じています。

お話しをお聴きすることで、相談のお答えに近づけるように、願わくば、少しでも心穏やかに安心していただけるように、と思っています。

心穏やかに、安心して。
求めているお応えの近くへ。



興正寺で
出会える、
日本に息づく
おもしろみ。



魅力の カタチ KATACHI

一節切 銘 鳳吹

興正寺蔵 徳川光友寄附

消えた音色

さて、これは縦笛か横笛か。
和楽器を見慣れぬ私には、
一見ただけで
はわかりません。

上から横から繰
り返し眺めている
うちに、片側に四
つの穴があり、そ
の反対側にも一つ。筒の上に口
らしきものがあるから、どうや
ら縦笛のような……といった具
合です。何ものか、正体の分か
らない笛を見ているうちに数年
前に訪れた浜松の楽器博物館を
思い出しました。どこをどう持
ち、どのように音を出すのか皆
目見当のつかない形をしたもの
から、リコーダーやカステネット、
ギターといったなじみ深く手に

したことがあるものまで、圧倒
される量と種類の楽器が並び、
地球上のありとあらゆる場所
で、人類が等しく「音」を求めた
証がそこにありました。

狩猟が中心であった時代、
「音」は命に繋がる大切なもの
でした。獣から身を守る注意喚起
と威嚇の音であり、またその獣
を狩るための効果音として、離
れた仲間と状況を共有する大
切なツールだったのです。農耕の

時代にはいると、「音」は祭祀に
用いられるようになります。実
り多くあるように、天変地異が
起こらぬように。人びとは神に
祈りをささげ、敬いました。そ
してまた「音」は娯楽としての発
展も見せ、音楽を奏でるために
様々な楽器が生まれました。

楽器は大きく、弦楽器・管楽
器・打楽器・鍵盤楽器の四に分
けることができるのですが、

日本の伝統楽器では、太鼓など
の打楽器を「打物」・琵琶などの
弦楽器を「弾物」・尺八や篠笛な
どの管楽器を「吹物」と呼ぶそ
うです。この吹物の大半が横笛
で縦笛はわずかなのだとか。だ
とすると、目の前にあるこの笛
は珍しいものかもしれません。

笛の名は「一節切」。尺八の前
身とされる縦笛で、尺八が竹の
根元に近い部分を材料とするの

に対し、中間あたりを用い、しか
も名の由来ともなったとおり
「節は一つ」という作りです。の
ちに生まれた尺八よりも音域が
狭く、それゆえに表舞台から消
えてしまいました。楽譜は残さ
れていますが、和楽器の楽譜は
独特で音の長さが分かりませ
ん。江戸時代、徳川光友公が奏
でた音色はどのようなものでし
ょうか。



八事の地は興正寺創建当時より清らかな水が湧く山紫水明な場所と云われています。



今から三三〇年余前、尾張徳川家二代藩主光友公が飯田街道を御道行の折、八事の湧水でのどを潤していました。ふと空を見上げると山には紫雲が懸かり、岩の上で一心に坐禅をする修行僧がひとり。

光友公が「ここだなにをしている」と尋ねると、
「天長地久 風雨順時 万邦協和」(註1)
を祈っていると答えました。

この修行僧こそ、後の開山 天瑞 圓照和尚でした。

この出会いが、光友公より「八事山遍照院興正律寺」の号を賜り現在へとその系譜を紡ぐ、いずみのはじまりとなりました。

光友公との出会いから約七十年経ち、七代藩主宗春公は、「温知政要」^{おんちせいよう}二十一箇条の政治思想を打ち出しました。しかし、時の將軍 徳川吉宗公の享保の改革とは対照的な思想のため対立し、隠居生活二十五年の波乱の生涯を過ごす事となります。『芸どころ名古屋』の礎を築いた宗春公は、文献・和歌・書画・能楽や茶道を好み、八事の地で嗜むこともあったそうです。晩年、建中寺と興正寺の参詣だけが特別許可され、「御吹絵富士尔日」「八事山」「花籠図」といった書画が残されています。
茶の湯をたのしみながら、五世諦忍妙龍和尚と尾張の向後を語りあったのでしょうか。

時は流れ、明治から昭和の時代には、興正寺周辺は寺を中心に行楽地として訪れる人が多く、澄んだ水の湧く休憩処として、馬車鉄道の馬の水飲み場として利用されていました。この馬

車鉄道は後に、行楽客や参拝者を運ぶため、路面電車として整備されます。街並みの変容の中でも、興正寺門前には馬車屋や電車道等があり、名物の「そば饅頭」をお茶請けに参拝後のひとときをたのしむ人々が賑わいました。市電が整備された後も、半僧坊の山本球場(八事球場)で第一回全国選抜高等学校野球大会が開催されるなど、賑わいは続きます。

当時から當山で勤められている「千燈供養会」^{せんとうくようかい}の日には、法会の終了に合わせ十以上の市電が興正寺門前の線路に並び、参拝者を運んだといわれています。

江戸から現代まで、時代の色合いは様々ですが、八事の湧水を通して人と寺、信仰と行楽とが結ばれ、かつて、光友公や山を越える旅人が口にしていた水が、今もなお湧き出し流れつづけています。

いつまでも、この縁ある水を大事にしていきたいものです。

合 掌

註1 この地に自然災害が少なく、人同士の戦なく、人が皆平和に暮らせますように



昭和46年の八事駅周辺 写真提供: 八事・秋中歴史研究会(撮影 大崎輝明)

八事と水のつながり

地域の歴史と八事山

着物と暮らし



世界中の民族が、その土地の風土や生活習慣、しきたりに応じた衣服を発達させてきました。明治以降「西洋式」衣服が世界を席巻していますが、これは日本に限ったことではありません。百年前まで世界の各地で着られていた民族衣装の数々がどんどん失われてしまっているのです。

日本には日本の暮らしにあった「着物」があります。着物の特徴として「ほどくと反物にもどる」ということがあります。布を裁断してしまう西洋の服との大きな違いです。端切れひとつ、糸一本無駄にしない儉約の心から作られた形なのです。戦後の物資の乏しい時代には、着物を反物に戻して売ること、糊口をしのいだ、という話も。洋服のようなボタンはありませんので、サイズもなく調整がききます。丈の調整をすれば成長に合わせて長い間着続けることもできます。さらに言えば代々受け継ぐこともできるのです。

普段の暮らしの中で「着物を着る」ことは少しハードルが高いかもしれませんが、あえて「日本人らしさ」を振り返るために着物に挑戦してみてもいいのかもしれない。夏であれば、一番気楽な浴衣を着てあちこちへ出かけてみましょう。また是非、お寺参りやお茶会などへ、着物を着てお越しくださいませ。

自ずから然る

「おててのしわとしわをあわせて、しあわせ。なあゝむうゝ」
一度は耳にしたことのある方が多いのではないだろうか。人はいつ、何のために手を合わせるのでしょうか。

お詫びをするとき
お願いをするとき
食事をいただくとき

お参りで
道脇に佇むお地藏さまに

仏教の世界では右手を仏、左手は衆生として両手を合わせることで聖なる仏と我々衆生とが一緒になるという心を表している。私たちは知らず識らずのうちに仏様と縁を繋いでいるのかもしれない。



和 ・ 日 ・ 翠 ・ 竹

五感で和らげる

梅雨が明けるとすぐに汗ばむ夏がやってきます。照りつける日射しのもとを歩くには日傘が欠かせず、昨今では女性のみならず男性も手にする姿を見かけるようになりました。また室内では年々厳しくなる暑さから逃れようと、クーラーがフル稼働しています。

夏は暑いもの。これは昔から変わらないのですが、それをしのぐために取る手段は様変わりしました。扇子や団扇であおいで涼を得、扇風機の勢いのある風に幸せを感じる。人は暑さを技術で克服すべく邁進してきましたが、現代では空間にまで対象を広げています。空調のききを良くするために家屋の密閉性を求め、新たな素材や工法による住宅が増えて昔ながらの日本家屋が建てられることは少なくなりました。

では、技術なくして涼は得られないのかというと実はそうでもありません。たとえば風鈴のチリンという涼やかな音色、お湯でも水でもなく水でゆつくりと煎れたお茶、玄関先の打ち水などはどうでしょう。日本の伝統的な建築技法が用いられている竹翠亭は、クーラーをかけてもマンションほどには涼しくありません。直接には得られない涼を感じさせてくれるのは、こうした「和らげるもの」なのです。

暑い日には、クーラーで冷えきった部屋を出て竹翠亭を訪ねてみてください。掃き清めた玄関先の濡れた石の様子に目で涼み、軒先で奏でられる幽かな音色に耳を澄まし、冷たいお抹茶が喉を通る口福にひととき暑さを忘れる。五感で季節を愉しめる場所が少なくなった今だからこそ、「吾唯足知」心もちを大切にしたいと思うのです。

「おかえりなさい」と
ご家族やご先祖様を
お迎えしましょう

盆供養のご案内

盆供養会

私たちは、ご先祖様、祖父母やご両親、そして
ご自身から子々孫々へと、大きな命の流れの
なかに生かされています。

感謝し、その気持ちをご家族や親しい皆様で
受け継ぎ、伝えていきましよう。

◆ 興正寺では、「お施餓鬼」と「盆供養」を併せてお勤めされる
ことをお勧めしております。

本年より、盆供養と施餓鬼供養が同日にご参列いた
だけるようになりました。

◎ 盆合同供養会（七月・八月）

◎ 初盆合同供養会

◎ 大施餓鬼法会



盆合同供養会「七月・八月」

予約優先

日時 七月十四日

十三時

八月十日～十五日

十時／十二時三十分／十三時三十分／十五時

※八月十二日の合同供養会はございません。

※十五分前までに受付をお済ませください。

※所要時間 四十～五十分

申込方法 14ページ下段参照

場所 光明殿(二階)

盆供養料 五千元

施餓鬼 六尺 二万円
塔婆料 五尺 一万円
四尺 五千元

本年より、施餓鬼供養と同日にご参列いただけます。

初盆合同供養会

予約優先

初盆とは

特に初盆は忌明け(四十九日)が終わり、故人が初めて帰ってくる大切なご供養となります。ご家族揃って迎えましょう。

興正寺の初盆供養には、施餓鬼のお勤めを含みます。

なお、ご都合が合わない方は「遙拝供養」にてお申込みください。

日時 八月十二日

十時／十二時三十分／十三時三十分／十五時

※十五分前までに受付をお済ませください。

※所要時間 四十～五十分

申込方法 14ページ下段参照

當山にご納骨済の皆様には、別途、法会日時を指定した申込書をお送りします。

また、故人にとって初めてのお盆を、ご家庭でも習わしに従って迎えたいதாக「こもセット」をお預かりしてお届けいたします。

場所 光明殿(二階)

供養料 二万五千元 (六尺塔婆)
一万五千元 (五尺塔婆)
一万円 (四尺塔婆)

※施餓鬼の供養(塔婆料)含む

初盆合同供養会の流れ「法話あり」

- ① 受付
- ② 迎え火
- ③ 法会開始(僧侶入堂・読経・焼香)
- ④ 法会終了
- ⑤ 施餓鬼塔婆お納め

興正寺施主慰霊法会「八月十日 十四時三十分(於 西山本堂)」

戦没者追悼慰霊法会「八月十五日 八時(於 西山本堂)」

ご先祖様に功德を繋ぐ私たち家族の務めとして

大施餓鬼法会

予約優先

日時 八月四日

十四時三十分

八月十六日

十時三十分／十二時三十分／十四時三十分

※十五分前までに受付をお済ませください。

※所要時間 四十～五十分

申込方法 14ページ下段参照

場所 西山本堂(受付 普照殿)

施餓鬼 六尺 二万円
塔婆料 五尺 一万円
四尺 五千元

※「二霊」先祖代々の区分けなく

本年より、盆合同供養会と同日にご参列いただけます。同日希望の方は、上段の「盆合同供養会」欄をご参照ください。

お施餓鬼とは

お盆の「供養」と「お施餓鬼」は全く別のお勤めであることをご存知でしたか？

興正寺では一年を通じ、毎日お勤めしている法儀です。

お釈迦様と阿難の故事に由来し、あの世の「六道」の一つ、「餓鬼道」にいる餓鬼(生前の悪行によって餓鬼道に落ち、常に飢えと渇きに苦しんでいる魂)へ水や食べ物のお供え(施し)をして、その苦しみを和らげ供養するのが、お施餓鬼です。施餓鬼塔婆には、福德延寿や子孫長久の功德があるとされています。

精霊送り

「また来年ね」とお見送りを

精霊送りは、お盆に帰ってこられた御霊を、お供物と一緒にあの世へお送りする盆供養の日本文化です。お盆のお供えやお飾りなどを、敷物(コモ)や袋などにまとめて包んでお持ちください。蓮ろうそくは「送り火」として灯し、お預かりした「おしょういさま」と呼ばれる盆飾りは、読経と共に御霊にお持ち帰りいただきます。

※蓮ろうそくに火を灯し、西山本堂にお参りください。

日時 八月十五日 十七時～二十時

受付 西山本堂前

供養料 一体 千円 (蓮ろうそく授与)

※ご希望の方には蓮ろうそくのみ(500円)授与もいたします。
※盆飾りをお持ちでない方も、一緒に御霊をお送りください。



圓照堂
ご納骨の方へ
ご予約

◆8月10日～16日は「お位牌出しのみ」の対応となります。期間中はお骨出しは出来ません。ご了承ください。

お位牌出し予約

電話 052-832-2801

来寺 圓照堂・納経所まで

【締切】希望日前日15時まで

※個別供養については、ご希望にそいかなる場合がございますので、ご了承ください。事前にお問合せください。

亡き人へ 私たちが できること

ご供養とは

私たちが亡き人に対してできることは限られます。故人から生前に受けた恩は返しても返し切れません。せめて亡き人にと想いをし、感謝する心が供養だと言えるでしょう。毎日、手を合わせ偲ぶ方、月命日やお彼岸・お盆に欠かさずお参りされる方、供養のかたちは様々です。

年末年始にはご先祖様にご挨拶に行きます。「今年一年見守っていただきありがとうございます。来年もよろしく願います」と感謝の意を伝えましょう。ご先祖様あつての私たちです。

秋彼岸の「お中日」である秋分の日が「先祖をうやまい、亡くなった人々を偲ぶ」という意味をもち、ご先祖様を供養するとともに春に願った五穀豊穡に感謝する期間です。お彼岸は春と秋、二つで一つのものになります。

命日より亡くなってから一年が経ちますと一周忌といい、それ以降を「祥月忌」といいます。祥月忌は亡くなられた命日を指し、毎年の命日にその節目としてご供養します。

回忌供養（法要）も祥月忌にあたりますが、仏教では諸説があり三と七は吉祥数になるので特別に三回忌、七回忌として大切にお勤めをいたします。そして三十三回忌になりますと「弔い上げ」といい、以後は先祖の霊として供養していきます。

年末
年始

春彼岸

秋彼岸

施餓鬼

お盆
(初盆)

命日の供養
(祥月忌)

回忌
供養

百ヶ日法要

百ヶ日法要とは亡くなってから百日目に行う法要をいい、また卒哭忌ともいわれ、「卒」は終わること。「哭」というのは、嘆き悲しむことを意味します。「ただ嘆き悲しむのは百ヶ日でやめて少しずつ前を向いていきましょう」というものです。

四十九日(忌明け法要)

亡くなってから四十九日目をもって「忌明け(満中陰)」といい、その日を境に仏の世界へと旅立ちます。皆さんで送り出してあげましょう。

七日経

亡くなってから四十九日間は生と死の間にいます。それを「中陰」といい、七日間ごとに仏さまに教えを戴き、忌明け(満中陰)に向けて読経供養を勤めていくものです。

春彼岸の「お中日」である春分の日が「自然をたたえ、生物をいつくしむ」という意味をもち、ご先祖様を供養するとともに五穀豊穡を願う期間とされます。

お盆には亡くなった祖先や家族の供養を行うと同時に、餓鬼の供養も行つて功德を積むことで自分にも救いがあるとされています。餓鬼の世界に落ち、苦しむ御霊のために心を込めて食べ物や飲み物などの供物を施し供養する、自身の徳を積む行事です。

古来よりご先祖様が家に戻ってくると言われており、そのためにいろいろな設えやお供え物をして迎えます。旅から帰った家族を迎えるように、ご先祖様を身近に感じ、ご家族揃って一緒に過ごしましょう。

彼岸とは

彼岸は年に2回あり、それぞれ春分と秋分の日を挟む前後3日間を足した1週間を「彼岸」といいます。彼岸の間は私たちの世界と故人の世界が最も通じやすくなると考えられています。その時に併せてお墓参りやご供養をしましょう。

ご逝去

精霊棚

故人をお迎えするお盆の習わし
お盆にご先祖様を迎える準備のひとつに「精霊棚」があります。
地域や家庭によって精霊棚に飾るものは多種多様です。



① 迎え火

ご先祖様があの世からこの世に向かうとき、迷わず辿り着けるように目印としたのが迎え火です。盆提灯やたいまつで火を焚いたり、ほおずきを盆提灯に見立ててお供えしたりもします。

② マコモいざ

精霊棚を設える際、はじめにマコモごさを敷きます。お釈迦様がマコモで編んだ寝床に病人を寝かせて治療されたと言われていて、ことから敷かれるようになりました。

③ 水の子

洗った米とさいの目に切ったナスとキュウリを盛りつけてお供えします。たくさんのお供えを盛って迎えるとき「すべての御霊に食べ物が行き届くように」という思いから始まったとされています。その他には、季節の果物・そうめん・お膳など、たくさんのお供え物をお供えします。

④ 精霊馬

キュウリ、ナス、割り箸または爪楊枝を用意し、それらでキュウリの馬とナスの牛を作ります。ご先祖様に早く帰ってきていただくためにキュウリの馬を用意し、あの世に戻る時には供物をたくさん積んでゆつたり帰れるようにとナスの牛を作ります。供物にならぶ初物の収穫物は、飢えの季節の終わりを喜び、豊かな実りへの感謝をあらわしています。精霊棚には、生きることの喜びや亡き人への想いが色鮮やかに飾られているとも言えるでしょう。

お供えについて

私たちがご先祖様へ伝えたいことは何でしょう…
寂しい気持ち？ お願い事？ それとも感謝でしょうか。
その気落ちの表れが「お供え」です。

仏事、行事でのお供え

私たちは参拝の時、ろうそくや線香をお供えします。新年には鏡餅を、法要ではお菓子や果物、お餅をお供えすることが多いです。お賽銭やお布施も、大きな意味でお供えと言えましょう。
皆様からの心として、お持ちになったお供えは、受付にてお預かりし仏前へお供えさせていただきます。

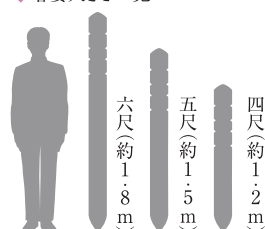
お盆のお供え

ご先祖様が家に帰ってこられると言われているお盆。お迎えする私たちは精一杯のおもてなしをいたしましょう。ナスやキュウリを使ってお飾りを作り、お部屋となる精霊棚を設えたりします。仏さまの智慧の灯火としてほおずきを入れたお花を飾ったりもします。亡き人のお好きな物をお供えしても良いのです。

塔婆とは？

「卒塔婆」の略語で、サンスクリット語のストウパがルーツ。釈迦が入滅したあと、その舍利（遺骨）を納めた塔（ストウパ）を建てて供養したのが始まり。卒塔婆は、故人や先祖を供養する追善供養（生きていた人が亡くなった人に対して行う供養のこと）の目的で建てられます。追善の文字があらわすように、生きていた人が亡くなった人の代わり、この世で行う行為で、その功德はまた自分に戻ってくるという考え方です。

◆塔婆大きさ一覧



興正寺の塔婆は、1本1本手書きでおつくりしております。

盆合同供養会／初盆合同供養会
大施餓鬼法会

申込方法

※ご都合が合わず参列ができない方は
「遙拝供養」にてお申込みください。

振込

盆合同供養会〔七月〕・・・七月 5日 締切
盆合同供養会〔八月〕・初盆・・・七月31日 締切
大施餓鬼法会 ……………七月31日 締切
(8月4日法会は7月26日締切)

来寺

当日まで（納経所）

1 申込書・振込用紙・返信用封筒を記入する。
申込書は返信用封筒に入れる。

2 お近くの郵便局で
・振込 ・申込書の発送手続きをする。

1 申込書に記入する。

2 納経所にて次の手続きを行う。
・申込書持参 ・お布施のお納め

七月五日

和と輪と話「わとわとわ」

豊田マネージメント研究所(TMG)学習ほつこり療法®のお寺で楽しむ高齢者アクティビティ。

主催 問合せ先

株式会社豊田マネージメント研究所

ヘルスケア事業部

(電話) 052184212050

場所 普照殿「華宮」
けいぐう

時間 十時・十三時(所要一時間半)

申込締切 不要(先着五十名)

参加料 無料

七月六日

源をたどる布薩・一日修養会③

本年は仏教徒の定期的な修行『布薩』を現代日本によりがえさせます。午前に供養と読経と座学、精進料理の昼食をはさみ、午後に瞑想をおこなうことで、暮らしのなかに仏教を取り入れていきます。(全五回／ご興味の回のみ受講も可)



③回目内容

明恵・貞慶 あかあかの月／驚くほどの純粹さ
筆致のなかに宿る龍たち

場所 光明殿

時間 十時・十四時

申込締切 要(普照殿受付／各回三日前まで)

支具料 二千元(三宝講員 千五百円)

※『三宝講』については申込時にお問合せください。

七月十七日 旧暦六月十五日

青葉まつり

真言宗の開祖弘法大師空海のご生誕を祝う法会です。華御堂を設え甘茶をかけ、皆さまにも法会に参加いただきます。



場所 西山本堂

時間 十三時

申込締切 不要

特別朱印 あり(限定数／一休三百円)

七月二十日・二十六日

お寺のラジオ体操

地域の子供会・町内会の皆さまと共に、合掌から始まるお寺ならではのラジオ体操で清々しい朝を一緒にしませんか。

場所 五重塔前(雨天決行)

時間 六時三十分／ラジオ体操
六時四十分／おつとめ・法話

申込締切 七時／作務(境内清掃)

不要(開始前集合)

申込締切 不要(開始前集合)

七月十七日

八事夢講座

興正寺にも縁が深く、「芸どころ名古屋」の礎を築いたとされる尾張徳川家七代藩主宗春公に迫ります。(ご興味の回のみ受講も可能。)

全12回 (2019～2020年予定)

6/19・7/17・8/21・9/18・10/16・11/20

12/18・1/15・2/19・3/18・4/15・5/20

講師 安田文吉

場所 光明殿

時間 十三時三十分～十五時三十分
(途中休憩あり／受付 三十分前より)

申込・締切 要(公式サイト・電話・納経所)

支具料 一講座 千円(当日納入)



やすだぶんきち
安田文吉
(南山大学客員教授)
名古屋市熱田区生まれ。幼少より、常磐津節や西川流日本舞踊などに親しみ、浄瑠璃や歌舞伎など伝統芸能を研究。大学で教鞭をとるほか、著書を多数刊行。

七月二十六日

子ども寺子屋くらぶ 夏

子ども寺子屋くらぶは、四季の体験や茶の湯を通じて日本の伝統や文化を学び、子供達の



昨年までの様子

豊かな感性が育まれることを願って開催しています。
夏は「紋切り遊び：日本の夏」がテーマ。
和紙を切って美しい形を生み出す紋切りは、日本の伝統遊びです。



講師 竹翠亭

場所 竹翠亭

時間 十時三十分
十二時三十分

申込締切 (受付／十時より)

対象 小学生まで

申込・締切 要(電話／五月二十七日より・定員あり)

支具料 千円／付添 五百円(呈茶付)

支具料 千円／付添 五百円(呈茶付)

七月二十七日

筆舞® [ふでまい]

音楽の旋律に乗せて筆とともに優美に舞う。ニューヨーク・パリ・ポーランドにて公演を行い世界の人々を魅了した新しい書の芸術「筆舞®」。今回は希望をテーマにした「黎明」をご覧頂きます。また、名古屋の老舗菓子店「芳光」の特別なお菓子と、精進料理「安江」のお弁当をご用意してお待ち致しております。

書家 浅井微芳

場 所 大書院・竹翠亭

時 間 十時～十二時三十分
十三時～十五時三十分

予約・締切 要(納経所・六月一日より受付／定員あり)

料 金 六千円(呈茶・精進料理含／予約時支払)



七月二十九日

八事の森の夜の虫たちの観察

自然豊かな八事の森の中で灯火観察とナイトハイクを行います。

主催・問合せ／昭和生涯学習センター
(電話 05218521144)

講師 なごや東山の森づくりの会

時 間 十九時～二十一時

申込締切 要(定員あり)

八月四日

布薩会

お釈迦様が在世のころより伝わる法会です。當山最古のお勤めで、普段の行いを省み、積み重ねた罪を悔い改める儀式です。より良い明日のために今のご自分を見つめ直す機会にどうぞご参列ください。

場 所 西山本堂

時 間 九時四十五分～十一時(法話含)

申込・締切 不要
特別朱印 あり(限定数／一体三百円)



八月八・九日

想耕茶会「涼風の席」

夏だからこそ楽しんでいただきたい特別なお茶席です。趣の異なる煎茶と抹茶の二席にお入りいただきます。

場 所 竹翠亭

時 間 十時・十一時

申込・締切 要(電話／定員あり)
茶 券 三千円

八月十日

観音堂九万九千日

九万九千日とは、この日にお参りをすれば、功德が九万九千日分にも広がり大願成就するといわれている日です。

場 所 観音堂
時 間 九時～十時(法話含)
申込・締切 不要



九月二十七日～十月五日

団体参拝 [スリランカ仏教交流訪問]

この度の報に接し、衷心より哀悼の意を表すとともに菩提を念じさせていただきます。スリランカは、二千年以上の歴史と文化を今に伝える美しい仏教の国です。住職と親交があり、かつて法福寺で修行をされたスリランカの僧侶や現地寺院との交流など、観光だけにとどまらず、素晴らしい体験と心温まる感動の旅となることと思います。
(企画／一般財団法人方丈文庫)

集 合 東京国際空港(羽田空港)

申込・締切 要(締切六月三十日／定員あり)

会 費 三十万円

(全食事、レセプション、法要料、諸税、見学料等を含む)

※詳しくは、お問合せください。概要を送付致します。



昨年までの様子

◆九万九千日のほり幡奉納
のほり幡奉納者は当日にご祈願をいたします。
(当日参列できない方も、奉納は受け付けております)観音さまとご仏縁を深めてくださいますことをお願い申し上げます。
一体 三千円



※都合により変更となる場合がございます。随時、公式サイトにてお知らせ致します。
※各講座の詳細・ご予約は公式サイト内『まなびの講座』よりご確認ください。

講座のご案内

「カレンダー日程と併せてご覧ください」

仏讃歌

御詠歌入門講座

金剛流御詠歌の入門講座。お作法や符の読み方からはじめます。入門編に触れた後には、初級・上級講座も。

講師	鈴木智弘 僧侶	申込	不要
時間	十四時	支具料	無料
場所	光明殿		

体験する

阿息観（密教神）

密教の修行法として説かれた瞑想法のレクチャーをストレスゼロをモットーに、毎月ゼロの日（10・20・30日）に開講。

講師	杉浦宣秀 僧侶	申込	不要
時間	十四時	支具料	無料
場所	境内揭示（納経所付近）		

写経写仏はじめて講座

毎月二十一日の興正寺マルシェの日に行われる体験講座です。どなたでもお気軽に。十三時より法話あり。（再受講の方は、時間内参加随意）

講師	榊田英伸 僧侶	場所	光明殿
時間	十一時～十四時（はじめての方は十一時より）	申込	不要
		支具料	千円

学ぶ

仏教入門講座

難しい用語を使わず、お経を中心に勉強していきます。脱線話もあり、仏教は初めてという方も安心です。

講師	森田泰澄 僧侶	申込	不要
時間	十四時	支具料	無料
場所	普照殿「華宮」		

仏典読み解き講座

仏典（仏教典籍）とは仏教における権威ある書物のこと。平安時代に書かれた地獄・極楽を詳しく説いた『往生要集』を読み解きます。

講師	榊田英伸 僧侶	申込	不要
時間	十時	支具料	無料
場所	普照殿「華宮」		

健康づくり

TERA・YOGA

ヨガの基本を優しくレッスンします。茶会や結婚式にも利用される大広間で庭園を眺めながら、月に一度の自身をねぎらう時間として。

講師	西口のぞみ		
時間	レギュラークラス／十時～十一時三十分 マタニティクラス／十三時～十四時三十分		
場所	大書院（受付 普照殿受付）		
申込	要（公式サイトより）		
支具料	二千円		

和の心にあふれる

興正寺の普門園内にある茶室 竹翠亭で行われる少人数制の講座です。日本文化にふれ、心を深めるひとときを。

申込 要（公式サイトより）

遊翠の心 写経

講師	西山海良 僧侶	支具料	千五百円
時間	十時・十四時		
場所	竹翠亭		

遊翠の心 阿息観

講師	西山海良 僧侶	支具料	千五百円
時間	十時・十四時		
場所	竹翠亭		

遊翠の心 水墨画

講師	山田静舟	支具料	二千円（呈茶会）
時間	十四時		
場所	竹翠亭		

遊翠の心 きもの装い「初級・応用」

講師	竹翠亭	場所	竹翠亭
時間	初級／十時 応用／十三時	支具料	二千円（呈茶会）

遊翠の心 茶の古典を読む

講師	榊田英伸 僧侶	支具料	千五百円
時間	十時		
場所	竹翠亭		

遊翠の心 茶の屏「夏」

講師	竹翠亭	支具料	二千円
時間	十時・十四時		
場所	竹翠亭		

◆ 葬儀について

家族葬から社葬・大型葬まで、一般的なセレモニーホールとは異なり緑豊かで三百年以上の時を刻む歴史ある地での葬儀は、より一層にお越しいただいた方の記憶に残ることでしょう。お問合せは、お電話にて。

◆ 永代供養納骨堂のご相談について

家族や親戚、誰もが集まりやすい八事の杜がこれからの人生にやすらぎの道を示してくれることでしょう。資料請求は公式サイトお問合せ、もしくは、お電話にて。

祥月忌合同供養会（日程はカレンダー参照）

場所	西山本堂（圓照堂・天瑞いずみの会は圓照堂）
時間	西山本堂十三時・圓照堂十三時三十分
供養料	一霊 五千円より（当日受付）

◆ 婚礼について

日本の歴史文化を紡いできた貴重な場所で仏前結婚式を執り行っております。前撮りも承ります。

◎ 境内施設利用について

ご希望の方は、お問合せください。倫理道德・近隣配慮等、寺院・文化的施設である事をご理解いただける場合、ご利用いただけます。

◎ 団体対応について

小学校課外授業などの教育機関・企業研修や各種団体等での茶の湯体験や歴史授業依頼なども、お気軽にご相談ください。

◎ 境内撮影利用について

営利目的や大人数での撮影は、許可が必要です。行祭事等との確認もごいますので事前にお問合せをお願い致します。尚、許可できない場合がございます。ご了承ください。

※室内や法会中は、許可者以外の撮影をご遠慮いただいております。

◎ 報道関係の皆様へ

取材、ロケーション使用依頼・掲載や画像使用のご相談を承っております。お問合せください。



月	火	水	木	金	土	日
1 先負 夏安居	2 仏滅 遊翠の心 さもの装い [初級・応用]	3 赤口 遊翠の心 さもの装い [初級・応用]	4 先勝	5 友引 縁日 大随求明王 [露店あり] 場所/西山本堂 ▽干支成満巡り 集合/納経所前 時間/10時 支具料/無料(別途朱印代) シニア音楽アクティビティ 和と輪と話	6 先負 源をたどる布薩・ 一日修養会③ 御詠歌入門講座 普門園休園日[竹翠亭含]	7 仏滅 祥月忌合同供養会 [霊龜堂・圓照堂・法羅陀浄 苑・遮那奏苑・永代経・永代 納骨・天瑞いずみの会]
8 大安 縁日 大日如来 場所/大日堂 普門園休園日[竹翠亭含] 夏安居	9 赤口 遊翠の心 写経	10 先勝 阿息観	11 友引 遊翠の心 茶の古典を読む	12 先負 戌の日 安産合同祈禱会	13 仏滅 縁日 虚空蔵菩薩 [露店あり] 場所/西山本堂 ▽干支成満巡り 集合/納経所前 時間/10時 支具料/無料(別途朱印代)	14 大安 祥月忌合同供養会 [圓照堂・天瑞いずみの会] 七月盆合同供養会
15 赤口 縁日 阿弥陀如来 場所/東山奥之院 六世祥月 夏安居	16 先勝	17 友引 九世祥月 八事山夢講座 青葉まつり 普門園休園日[竹翠亭含]	18 先負 縁日 観世音菩薩 場所/観音堂 仏典読み解き講座 普門園休園日[竹翠亭含]	19 仏滅	20 大安 阿息観 御詠歌入門講座 普門園休園日[竹翠亭含] お寺のラジオ体操	21 赤口 縁日 弘法大師 [興正寺マルシェ] 場所/弘法堂 ▽月並御影供 場所/西山本堂 時間/14時 マルシェ茶席 写経写仏 はじめて講座
22 先勝 お寺のラジオ体操 夏安居	23 友引 遊翠の心 阿息観	24 先負 縁日 地藏菩薩 場所/能満堂 戌の日 安産合同祈禱会 遊翠の心 茶の扉	25 仏滅 仏教入門講座	26 大安 名古屋市 自動車図書館巡回 子ども寺子屋 くらぶ[夏] 遊翠の心 水墨画	27 赤口 筆舞	28 先勝 縁日 不動明王 場所/不動護摩堂 祥月忌合同供養会 [霊龜堂・圓照堂・法羅陀浄 苑・遮那奏苑・永代経・永代 納骨・天瑞いずみの会] 御詠歌 勉強会
29 友引 八事の森の夜の 虫たちの観察会 普門園休園日[竹翠亭含] 夏安居	30 先負 阿息観	31 仏滅				

※赤文字(行事)、緑色文字(講座)の詳細は、15～17ページでご紹介しています。

※都合により変更となる場合がございます。随時、公式サイトにてお知らせ致します。

※各講座の詳細・ご予約は公式サイト内『まなびの講座』よりご確認ください。



月	火	水	木	金	土	日
			1 先勝 遊翠の心 茶の古典を読む 夏安居	2 友引	3 先負 御詠歌入門講座 夏安居[結願]	4 仏滅 布薩会 大施餓鬼法会
5 大安 縁日 大随求明王 [露店あり] 場所/西山本堂 ▽干支成満巡り 集合/納経所前 時間/10時 支具料/無料(別途朱印代) 戌の日 安産合同祈禱会	6 赤口	7 先勝 遊翠の心きもの装い [初級・応用]	8 友引 縁日 大日如来 場所/大日堂 想耕茶会[涼風の席]	9 先負	10 仏滅 十九世祥月 観音堂九万九千日 興正寺施主慰霊法会 盆合同供養会[12日除く]	11 大安
12 赤口 初盆合同供養会 盆合同供養会[12日除く]	13 先勝 縁日 虚空蔵菩薩 [露店あり] 場所/西山本堂 ▽干支成満巡り 集合/納経所前 時間/10時 支具料/無料(別途朱印代) お盆の呈茶席[於 竹翠亭]	14 友引	15 先負 戦没者追悼慰霊法会 精霊送り	16 仏滅 大施餓鬼法会	17 大安 戌の日 安産合同祈禱会 御詠歌入門講座 普門園休園日[竹翠亭含]	18 赤口 縁日 観世音菩薩 場所/観音堂 祥月忌合同供養会 [霊龜堂・圓照堂・法羅陀浄 苑・遮那奏苑・永代経・永代 納骨・天瑞いずみの会]
19 先勝	20 友引 阿息観 普門園休園日[竹翠亭含]	21 先負 縁日 弘法大師 [興正寺マルシェ] 場所/弘法堂 ▽月並御影供 場所/西山本堂 時間/14時 二世祥月 マルシェ茶席 八事山夢講座 写経写仏 はじめて講座 TERA-YOGA [レギュラー・マタニティ]	22 仏滅	23 大安 遊翠の心 水墨画	24 赤口 縁日 地藏菩薩 [大祭] 場所/能満堂 金鱗会納涼茶会	25 先勝
26 友引	27 先負 普門園休園日[竹翠亭含]	28 仏滅 縁日 不動明王 場所/不動護摩堂 遊翠の心 茶の扉	29 大安 戌の日 安産合同祈禱会	30 友引 阿息観	31 先負	

※赤字(行事)、緑色文字(講座)の詳細は、15～17ページでご紹介しています。

※都合により変更となる場合がございます。随時、公式サイトにてお知らせ致します。

※各講座の詳細・ご予約は公式サイト内『まなびの講座』よりご確認くださいませ。